

- 1 単元名 かかわって、表現力を高めよう！ 教材名 Unit5 Cell Phones — For or Against?
(携帯電話—賛成か反対か?)

- 2 単元目標
- ・仲間とのかかわりの中で、Show&Tell や writing に積極的に参加することができる。
 - ・話し手として、聞き手とやりとりしながらできごとや意見を豊かに表現できる。また、聞き手として分からないことがあったらそのままにせず、不理解表明ができる。

3 指導計画

1	分詞による後置修飾が用いられたクイズに答えたり、クイズを作成する。
2	Cell Phones (p50) の再生活動を元に、身近な物について表現する。
3	間接疑問文を用いて、指示された物のありかを尋ねたり説明したりする。
4	Cell Phones (p51) の再生活動を元に、Mike と母のやりとりをアレンジする。
⑤	昔の写真を用いて、思い出についてやりとりしながら表現する。
6	Cell Phones (p52、53) の再生活動をおこなう。
7	あるテーマについて、相互に反対意見を表現する writing 活動をおこなう。
8	Unit 5 のまとめの read & write をおこなう。

4 本単元における生徒の実態と単元構想

(1) 研修テーマに迫る手立て

本校の研修テーマ「じっくり考え、表現できる子」の具体的な姿として、中学3年生では、

- ①より確かな根拠や裏付けのある考えをもつ。
②適切な方法や言葉を選び、自分の考えや意図を伝える。
③交流したことを生かし、理由や根拠をはっきりさせて、論理的に表現する。

の3点を設定している。

本単元では、教科書で学習したことをもとに Show&Tell や writing 活動をおこなう。

このような活動では、コミュニケーションが常にスムーズに行われるとは限らない。そこで、授業の最初に常設的活動として、Short Talking や J-E Card、Active Listening など対話を円滑に継続させるための様々な活動をおこなっている。普段から、話し手としてつなぎ言葉を使って対話したり、既習の表現を使って自分の考えや事実を述たりすることで、対話活動に習熟させることは重要である。また聞き手としては、分からないことは分からないと表明したり、あいづちをうって相手が話しやすいようにしたりするなど、対話を継続、発展させる strategy を身につけさせるようにしてきた。本単元でも、発表者は聞き手とのやりとりを大切(interactive)にしながら表現するよう指示していく。そのため、Show&Tell では Picture Book を用意させ、やりとりの中で知らない表現が出てきてしまった場合には、絵を指し示したり、ジェスチャーで示したりしながら何とかして自分の考えを伝えるようにさせていく。さらに、活動後には必ず振り返りの時間を設け、うまく伝えられなかった表現や応答に苦しんだ部分について次回の活動に生かせるようにさせていきたい。

(2) 本単元における生徒の実態と願う姿

本単元で学習する分詞による後置修飾は、1年時に学習した形容詞及び前置詞句による修飾、2年時不定詞による修飾に続き、核名詞を後ろから詳しく説明する文である。できるだけ詳しい情報を伝えることで、意図をより正確に伝えることができる。

3年生は、教科書を読んで意味をつかむなどの活動は得意であるが、やりとりの中で自らの考えを述べるなどの表現(発信)活動が全般的に苦手であった。しかし、新学習指導要領で目標として掲げられているとおり、コミュニケーション能力の基礎を養うことは大変重要である。各単元での教科書の学習が、コミュニケーション活動に生かされるようになっていかなければならないと考える。

そこで本単元では、教科書を使ってストーリーを再生する活動を行ったあとで、具体物を用いながら、後置修飾によって事柄を詳しく説明ができる Show&Tell をおこなっていく。ここでは、原稿を作成せず、グループのメンバーとやりとりしながら対話を進めていくようにしたい。また、本文の中では携帯電話について意見が述べられている本文があるため、相互に考えを批評し合い、critical thinking の力も育てていきたいと考える。ただ、単発のコミュニケーション活動では、前回の活動で自己課題を発見してもそれを生かきすることが難しい。コミュニケーション活動が効果を生むためには、生徒がその日の目標を達成できたかどうかを確認し、それに基づいて改善していくステップを授業の中に入れる必要がある。そこで、通常1回分のプレゼンテーションの内容を4回に分割し、10分程度の所要時間で継続しておこなうようにしていく。そして、各プレゼンテーションの後に振り返りの時間を設けるようにする。これにより、生徒の改良の機会を増やすとともに、生徒にも教師にも活動の慣れを生み、短時間でも密度の濃い活動をおこなうことができると思う。

Show&Tell の対話活動と反対意見を表現する writing 及び、各回の振り返り活動を通して、言葉を尽くしたやりとりを図り、相互理解を深めることができる生徒を育成していきたいと考える。

5 本時の授業（5／8）

（1）本時の目標

- ・仲間とのかかわりの中で、Show&Tell に積極的に参加しようとする。
- ・できごとについて、聞き手とやりとりしながら表現できる。

（2）着目生徒について

本単元では、Show&Tell の形式で、写真を提示しながら思い出を紹介する活動をおこなう。着目生徒☆Aさんは、普段は明るく元気があり、英語も好きであるが、緊張した場面での発話となると、とたんに声が小さくなり、不安そうに発話するため、意図を十分に伝えることができていない。そこで、教科書で学んだ表現を応用して発話したり、相手が話しやすいようにあいづちをうったりすることが得意なBさんとペアを組ませ、自信をもって表現できるようにさせていきたい。また、対話活動で最も大切なことは、accuracy(正確さ)ではないことを伝え、相互に意図をやりとりすることに楽しみを見いださせたい。また、interactive な(双方向の)発表として必要なことを☆Aさんに挙げさせ、理解度を確認する。交流場面では、意図を伝えるための補助として全員に picture book を作成させ、それに沿って紹介を進めることができるようにしておく。発表者の発言の合間に、分からないことについて質問することは日本人にとってなじみのないことだが、相互理解を深める上では大変重要なことである。そこで、授業のスタートの Active Listening で、意図的な指名によって☆Aさんに質問をさせ、その質問に対して前向きな評価を返すようにしていきたい。

（3）本時の展開

段階	Learning Activity	学 習 活 動	○支援☆着目生徒について ■評価
つくる	0 Pair Talk 1 Greetings & Small Talk	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで3分間対話を継続させる。 Active Listening <ul style="list-style-type: none"> ・教師の small talk に対して質問を投げかける。質問できたグループから着席する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が興味をもてる内容を準備する。 ・質問に関連して話を発展させる。
	2 Confirmation of Learning Task	<div>Show&Tell を Interactive におこなおう！</div> <div>対話が Interactive になるためには、具体的に何をすればよいのだろうか。</div> Teacher's Demonstration <ul style="list-style-type: none"> ・昔の写真を用いて思い出を伝え、聴き手を巻きこむ対話を示す。 ○理解度確認 ○質疑応答 ○Non-Verbal-C	○ interactive な発表とはどのようなものかイメージできるようにおこなう。 ☆A に理解できているか確認し、デモが終わった後で発表者が心がけることを考えさせる。 ○分かりにくい文章は、言い換えをしたり絵で示したりして理解を図る。
	3 Show&Tell	Presentation <ul style="list-style-type: none"> ・一人5分程度で Show&Tell をおこなう。 ・Show&Tell では、聴き手は積極的に質問し、発表者が答えるようにしていく。 ・発表が終わった後、聞き手は Peer Review Sheet に comment を記入する。 ・発表会のルール <ul style="list-style-type: none"> ① Show&Tell は interactive におこなう。 ②原稿を準備せず、Topic Sheet だけを準備する。 ③聴き手はできるだけたくさん質問する。 	○ポイントについて確認する。 ①発表時は、聴衆を見よう。 ②やりとりを大切にしよう。 ③聴衆が理解できているか確認しながら進めよう。 ④問いかけには必ず応答しよう。 ■聞き手として、発表者とやりとりをしようとしたか(意欲) ■Q & Aを交えて、聞き手を巻き込むinteractiveな発表ができたか、質問に対して応答することができたか(表現)
交流する	4 Consolidation	Thinking of Improvement <p>発表では、聞き手の理解を確認し、やりとりしながら進めることができた。やりとりしながら対話することで、内容をより深く理解することができてよかった。</p>	○本時のねらいに照らし合わせて、自分の取組がどうであったか考えさせる。
	5 Closing Message	Catching the Message <ul style="list-style-type: none"> ○各グループの良かった点を確認する。 	・授業で良かった点について伝える。
振り返る			